

## ■三富地域におけるくず(落ち葉)掃きへのお誘い

- 1 趣 旨 三富地域の平地林は、農家の落ち葉堆肥の供給源であるとともに、都市住民にとっては身近な自然として様々な役割が期待されています。この貴重な平地林と農業が一体となった仕組みを次代に継承するための一環としてくず掃き（落ち葉掃き）を実施します。大勢の皆様の参加をお待ちしています。
- 2 予 定 時 期 平成30年1月～2月の土、日曜日（決定次第ホームページに掲載します。）
- 3 会 場 三富地域内（川越市、所沢市、狭山市、ふじみ野市、三芳町）
- 4 持 ち 物 等 くず掃きのできる服装、軍手、タオル、飲み物、防寒着、マスク、帽子、弁当（会場によっては主催者準備）
- 5 申 し 込 み 等 詳細は、決定次第ホームページに掲載しますので御確認の上、御応募願います。さんとめネット（<https://www.santome.jp/>）または、川越農林振興センター（<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0902/>）まで
- 6 お問い合わせ先 埼玉県川越農林振興センター  
管理部 三富農業・平地林活用担当  
〒350-1124 川越市新宿町 1-17-17  
ウエスタ川越公共施設棟5階  
T E L .049-242-1808  
F A X .049-243-7233

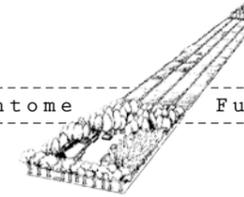


埼玉県マスコット  
「コバトン」

大勢の皆様の参加により  
貴重な緑を  
守り育てましょう。



落ち葉掃きの様子



第8回

# 「農」と里山 シンポジウム資料 Symposium

～三富(さんとめ)を未来に受け継ごう！～

## Program

### ■プログラム

- 1 開 会 ————— ■ 13:00
- 2 主催者あいさつ
- 3 来賓あいさつ
- 4 基調講演「三富地域を後世に残すためには」 ————— ■ 13:30  
広田 純一 氏（岩手大学 農学部 教授）
- ～ 休 憩 ～
- 5 パネル討論「未来への遺産・三富地域を語る」 ————— ■ 15:10  
コーディネーター 広田 純一 氏  
パネリスト 大木 洋史 氏（落ち葉堆肥実践農家）  
横山三枝子 氏（かわごえ環境ネット 副理事長）  
寺本壮太郎 氏（飛騨産業株式会社）
- 6 閉 会 ————— ■ 16:30

2017

9/24日

ウエスタ川越 多目的ホール

主催：三富地域農業振興協議会（事務局 J A いるま野 企画課）  
後援：関東農政局、関東地方環境事務所、埼玉県、川越市、所沢市、狭山市、ふじみ野市、三芳町、J A いるま野、かわごえ環境ネット（公財）森林文化協会、（公財）トトロのふるさと基金、（NPO）武蔵野の未来を創る会、生活クラブ生協埼玉  
協賛：西武鉄道㈱、日本工営㈱、㈱日東テクノプレーン、(有)埼玉フーズ、山崎製パン㈱

## 基調講演 「三富地域を後世に残すためには」



講師

ひろた じゅんいち  
**広田 純一氏**  
岩手大学 農学部 教授

1954年東京都生まれ。1983年東京大学大学院農学系研究科博士課程農学工学専攻修了（農学博士）。同年東京大学助手を経て、1985年岩手大学講師、1999年から現職。

専門は農村計画・地域計画。1990年代より学生とともに、県内外の地域づくり支援に携わり、2005年にNPO法人いわて地域づくり支援センターを立ち上げ（理事長）。一関市本寺地区（重要文化的景観）、遠野市山口集落（重要文化的景観）、イーハトーブの景勝地（名勝）等の景観保全と地域づくりに取り組む。

東日本大震災以後は、地域コミュニティの再建支援を中心に、国・岩手県・被災市町村の復興構想・復興計画の策定に関わる。内閣府東日本大震災復興構想会議検討部会委員、文化審議会文化財分科会第三専門調査会（文化的景観担当）、農水省世界農業遺産等専門家会議委員、環境省中央環境審議会自然公園小委員会委員ほか。昨年、世界農業遺産等専門家会議委員として「武蔵野の落ち葉堆肥農法」の現地調査を担当。

MEMO

## パネル討論 「未来への遺産・三富地域を語る」

コーディネーター **広田 純一氏**（岩手大学 農学部 教授）

パネリスト



落ち葉堆肥実践農家  
おおきひろし  
**大木洋史氏**

1983年埼玉県川越市生まれ。4年制大学の経済学部在学中に家業の農業に興味を持ち、21歳の時に就農する。ヤマ（＝平地林）で集めた落ち葉を堆肥化して使う、伝統的な土作りを継承し、毎年実践している。経営感覚を養うため、ファイナンシャルプランナーの資格を取得した。また、埼玉県青年農業経営士にも認定されている。現在の経営は両親と妻の4人で、4haの畑で露地野菜を中心に栽培している。就農当時はダイコン、サトイモ、ハウレンソウ、コマツナなどを栽培していたが、最近では、ネギ、ジャガイモも栽培している。地域農業の理解促進を目的に、6年前より農業に興味のある人をボランティアとして受け入れている。



かわごえ環境ネット副理事長  
よこやま み え こ  
**横山三枝子氏**

1953年大分県佐賀関町生まれ。大分大学教育学部卒業後、大阪府寝屋川市にて小学校教諭として5年間勤務する。結婚後は、東京に移り、子育てを機に、子どもと環境、農業を大切にする活動に参加するようになり、都民生協、世田谷プレーパーク活動に参加した。1992年に川越に転居し、おやこ劇場・生活クラブ生協などに参加する一方で、かわごえ環境ネットの自然部会に所属し、草刈り、ゴミひろいなどの里山の保全活動を行っている。また、2007年から「福原ファームクラブ」事務局としても活動している。主婦、福原ファームクラブ事務局、かわごえ環境ネット副理事長、くぬぎ山協議会副会長。



飛驒産業株式会社  
てらもと そうたろう  
**寺本壮太郎氏**

1979年岐阜県高山市生まれ。飛驒産業（株）コントラクト事業部に所属。地産地消を念頭に国産材を使用した家具製作（営業）を行う。1920年創業の飛驒産業は、木を愛し、生命とそれを育む環境を大事にしている。廃材とされてきた「木の節」を積極的に生かした家具を開発し、接着剤や塗料もすべて環境に負荷を与えないものを使用している。90年に渡る「曲げ木技術※」を基に、「スギ」などの軟らかい木材の強度・加工性能・意匠性の向上を目指した「圧縮」技術を確立した。森林破壊を伴うような外材から、環境に配慮した国産材へ関心が移る中で、三富地域の里山平地林と出会った。

※曲げ木技術とは、高含水率・高温状態（蒸煮）で木材組織を軟化させ造形する方法